

## 7 治療に難渋した LOH 症候群に対して 漢方薬投与が奏功した 1 例

琉球大学病院 泌尿器科

吉岡 拓哉

加齢男性性腺機能低下 (Late-Onset Hypogonadism : LOH) 症候群は、主として加齢またはストレスに伴うテストステロン値の低下により全身倦怠感、性欲低下、筋力低下、不眠、イライラなど多岐にわたる症状を呈する症候群である。診断は臨床症状とテストステロン値によって判断される。治療はテストステロン補充療法 (Testosterone Replacement Therapy : TRT) が中心になるが、TRTが禁忌である場合、適応とならない場合や効果が不十分な場合に漢方治療薬が検討される。

今回我々はTRTにて十分な効果が得られなかったLOH症候群に対して漢方治療薬が奏功した1例を経験したので報告する。

症例は52歳男性。X-4年にうつ、イライラ感等の症状が出現し近医にてLOH症候群と診断されTRTが開始されていた。葛根湯と五苓散を併用されたが効果不十分のためX年に当院へ紹介となった。当院初診時の主な症状として落胆感、ほてり、関節・筋肉症状を認めた。舌診にて瘀血、腹診では心下痞硬、胸脇苦満、小腹不仁を認めた。また熱証、気虚の状態であった。熱証であったため黄連解毒湯を開始したところほてりが著名に改善した。続いて関節・筋肉症状に対して治打撲一方を開始し症状は著名に改善、非常に高い満足感を得られた。